

JRひがし労仙台 業務部情報

2020年2月13日

N O , 0 5 2

JR東労働組合仙台地本業務部

発行責任者：横山裕介

申14号 中編成ワンマンの実施についての解明申し入れ団体交渉①

2月3日、申14号中編成ワンマンの実施についての解明申し入れについて団体交渉を行ってきました。

9項：繁忙期や花火大会などのイベントがある時にワンマン解除を行うのか明らかにすること。

《回答》多客期等における対応については、必要により地区センター等が行うこととなる。

(会) これまでもそうだが、白坂駅で大規模なコンサートがある時など、イベント等の場合であれば地区センターがホーム等でご案内をしたり、あとは業務委託駅白河駅周辺等でもイベントがあるので、そういう際にはLIVITほうで人数を増員して対応したりということで、これからも駅のほうや地区センターのほうで対応するようになる。

(組) 場合によってはワンマン解除はやらないのか。

(会) この区間に車掌が乗らなくなるのかというと、臨時列車等もあるので、郡山運輸区の車掌の乗務区間としては残る。ワンマン解除は想定していないが、線路を忘れたりといったことのないようにはしていく。

3項：モニターでお客様の乗り降りが、確認できない車両があった場合の取り扱いを明らかにすること。

《回答》発生した事象により対応は異なるが、関係者間で連携を取り対応すると共に、必要な対策を実施していく。

(会) これはモニターの確認の時の故障であるとかそういったことをイメージされていると思いますけども、カメラが1つ壊れた場合とか、全て壊れた場合とか、いろいろなことを想定しながら今マニュアル等の最終的に調整しているところである。関係者間というのは乗務員だけでは対応できない場合は、駅にお願いしたりとかも含めて調整しているところである。駅員が対応するのか運輸区社員が対応するのかも決めていく。

15項：今回中編成ワンマンを導入する線区の全ての駅に、視覚障害者音案内など検討しているのか明らかにすること。

《回答》車いすご利用のお客さま対応については、これまでどおりの取り扱いとなる。

(会) 基本的には車いすのお客さまが単独で乗降するという前提がない。基本的には係員がご案内をするところですので、単独乗降が前提としてやる整備はしない。一般のお客さまも含めて、段差で危なかったりだとか、そういうところは修繕をしていくという中身にはなる。段差に関しては、110系が走ってるので、嵩上げすると逆に気動車から降りるのに逆段差になってしまうといったところで、工事のほうはしていない。531系に統一されれば今後数年掛けて、黒磯-白坂間については、ホームのかさ上げのほうを実施していくところである。

10項：車掌乗務として特別改札をいつまで乗せるのか明らかにすること。

《回答》必要な案内は実施していく考えである。

(会) 特別改札ではなく案内要員というかたち。車掌以外の管理者等を含めた社員を、当面案内要員というところで乗車させるということになる。

(組) 期間はどのくらいか。乗る列車は決まっているのか。

(会) 一定期間は考えている。繁忙期も乗る計画はある。一応計画は立てるが、日々業務の中で何があるかわからないので、100%それに乗れるかっていうとそうではないかもしれない。